

〔出資法人の自主性・自律性の向上に向けた取組〕

経営基盤の充実・強化

- ・19年度は、指定管理者制度による利用料金収入の増加や諸経費の削減に努めた結果、当期正味財産増加額は前年度に比べ大きく減少したものの、407千円を確保している。
- ・指定管理者となっている「ひめぎんホール(愛媛県県民文化会館)」の運営については、学会や式典等の開催規模が縮小傾向にあり、また集客力の強いコンサートの開催が少なかったことから、19年度利用者数は601,040人(前年度比5.2%減)であったものの、施設の利用件数自体は増加しており、利用料金収入は182,015千円(前年度比5.2%増)となっている。大規模イベントが縮小傾向の中、積極的な営業活動等により利用件数を増やし、利用料金収入を昨年度に引続き増加させたことは評価できる。今後は、昨年度の2次評価を受けて取組指標として新たに設定した「利用者数」の目標達成に向けた取組みを進めていただきたい。(当法人は同施設の指定管理者として、21年4月から5年間の指定を引続き受けている。)
- ・収入増加の取組みにもあるように、企業の展示会・説明会や県下中学・高校への文化活動発表会の案内などの営業活動による施設利用の促進に加え、中央の民間団体等からの助成制度を活用した財源確保などに努めている。また、昨年度2次評価を受けて当法人が自ら主催し収益に直結する「文化事業収入」を新たに取組指標として設定するなど、より具体的な目標を設定して取組みを進めており、引続き安定した経営基盤の充実・強化を図っていただきたい。

【収入増加に向けた取組み】

- ・企業の展示会・説明会や県下中学・高校への文化活動発表会の案内など積極的な営業活動による会館利用料金収入や駐車場収入の増加
- ・中央の民間団体等の助成制度の積極的な活用による財源確保
- ・新しい財源開拓の検討

〔県の関与の適正化に向けた取組〕

人的関与の見直し

- ・20年度においても、文化事業に携わる2名の県職員の派遣を継続中である。これまでの点検評価の中でも触れてきたが、本来、当法人の設立目的からすると、文化事業に携わる職員は当法人のプロパー職員が行うべきであり、1次評価にもあるとおり、当法人の経営状況や人材の状況等を勘案しながら、法人の自主性・自律性の確保の観点からも、県職員の人的関与のあり方については、更に検討していただきたい。

〔総合的評価〕

- ・指定管理者となっている「ひめぎんホール(愛媛県県民文化会館)」の運営については、大規模イベントが縮小傾向の中、積極的な営業活動等により利用件数を増やし、利用料金収入を昨年度に引続き増加させたことは評価できるが、利用者数が減少していることを踏まえ、今後は新たに設定した「利用者数」の目標達成に向けた取組みを進めること。
- ・積極的な営業活動による利用促進や助成制度の積極的な活用などによる自主財源の拡充を図るほか、新たに取組指標として設定した「文化事業収入」等の目標達成に向けた取組みを進め、経営基盤の充実・強化を図ること。
- ・本来、当法人の設立目的からすると文化事業に携わる職員はプロパー職員が行うべきと考えることから、当法人の経営状況や人材の状況等を勘案しながら県職員の人的関与のあり方については、更に検討すること。